

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1990700054		
法人名	社会福祉法人身延山福祉会		
事業所名	グループホームのぞみ		
所在地	山梨県南巨摩郡身延町飯富2288番地		
自己評価作成日	平成23年10月12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=19
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成23年11月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設したばかりで手探り状態であり、アピールできるまでに到達していませんが、あたりまえの普通の暮らしの支援を実践できるよう試行錯誤を繰り返しているところです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広い敷地に平屋作り、一文字かわらの和風な建物はゆったりとした趣がある。事業所の周辺に、病院・歯科医院・スーパー・大型薬局店・コンビニなどがあり、利用者は徒歩で行くことができる環境にある。また、近隣に民家や公営アパートもあり、地域と交流の機会を持ちやすい。各居室にサンデッキがあり、布団を干したり、洗濯物を干したりと近隣の家々の景観に溶け込んでいる。新設であるため、準備期間中に職員の研修が重ねられ、その中で職員全員が話し合い理念を作り上げた。また、実際のケア方法についても、ひとりひとりの意見や‘おもい’が取り入れられたものになっている。職員は、認知症に対する知識も深く、グループホームのあり方などを、しっかり理解している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

事業所名 グループホームのぞみ

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(つくし)	ユニット名(たんぽぽ)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当施設の理念は、職員自ら話し合って作り上げたものであり、常に理念を念頭に置き課題に対処している。また、理念はケアのもとになる考えとし、ミーティング時に確認、指導している。	当施設の理念は、職員自ら話し合って作り上げたものであり、常に理念を念頭に置き課題に対処している。また、理念はケアのもとになる考えとし、ミーティング時に確認、指導している。	全職員が、利用者の立場に立った理念を、話し合いの中から作り上げた。ミーティングを全職員が参加できる時間帯の昼に開く工夫をし、理念を唱和したり、より具体的に理解できるよう補足したペーパーにより確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りや運動会、清掃活動への参加、ボランティアの受け入れ、散歩時や買い物時、地域の方と交流を図っている。現在、地域の会合やその他の活動にも参加させてもらえるようお願いをしているところである。	地域のお祭りや運動会、清掃活動への参加、ボランティアの受け入れ、散歩時や買い物時、地域の方と交流を図っている。現在、地域の会合やその他の活動にも参加させてもらえるようお願いをしているところである。	自治会(組)に加入し、河川清掃、回覧板の回覧、地域の運動会やお祭りなど参加している。買い物や散歩時に、地域の人と立ち話をしたり、また、訪ねて来たりしているが認知症の特性を充分理解できておらず、戸惑う時もあるが、職員が双方のクッション役を務め、より良い関係作りを支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	そこまでに至っていない	そこまでに至っていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、入居者の状況、活動内容を報告し、地域、行政、家族からの意見をいただきケアに反映させている。	運営推進会議では、入居者の状況、活動内容を報告し、地域、行政、家族からの意見をいただきケアに反映させている。	9月に第1回目の運営推進会議を開いた。役場職員、区長、民生委員、家族代表(各ユニットから1名ずつ)が参加。活動状況や生活の様子、行事などの情報提供をした。家族からは、医師の訪問診療を受けたいという要望があった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居状況の報告や、機関紙を届け活動状況を報告し助言をいただいている。	入居状況の報告や、機関紙を届け活動状況を報告し助言をいただいている。	町担当窓口への情報提供に努め、細かい対応についても相談している。要支援2の対象者の入居についてや、他市町村に居住者の入居希望など実態を知ってもらい、相互に共通理解を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設事前研修にて身体拘束廃止について学び、月に1回職員会議時に、不適切なケア(特にスピーチロック)について振り返る機会を設けている。	開設事前研修にて身体拘束廃止について学び、月に1回職員会議時に、不適切なケア(特にスピーチロック)について振り返る機会を設けている。	事業所内に身体拘束廃止委員会を作り、虐待についてのDVDを見てのレポート提出、講師を招いての勉強会などを重ねている。また、ミーティング時に、行動を止める言葉の置き換えなどを話し合い、相互に意識を高めることで、職員同士で注意し合える関係を築いている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	開設事前研修、および、開設後のビデオ研修にて虐待防止の研修を開催している。また、日常遣う言葉やケアに不適切だと思われることはなかったか、ケアの振り返りを促している。	開設事前研修、および、開設後のビデオ研修にて虐待防止の研修を開催している。また、日常遣う言葉やケアに不適切だと思われることはなかったか、ケアの振り返りを促している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	開設前研修、およびビデオ研修を通して、権利擁護について学ぶ機会を作っている。	開設前研修、およびビデオ研修を通して、権利擁護について学ぶ機会を作っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関して一通りの説明を行ない、不安や疑問点を伺い答えるようにしている。	契約に関して一通りの説明を行ない、不安や疑問点を伺い答えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(つくし)	ユニット名(たんぽぽ)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者に関しては日頃より、要望等を聴きながら対応を心がけている。その時にどうして過ごしたいか、余暇活動や、食事、おやつに関して何を食べたいか等要望を聴くようにしている。また、家族には、目安箱を設置し忌憚ない意見をお願いしている。また、面会や電話連絡の際に意見要望等を聴くよう心がけている。	入居者に関しては日頃より、要望等を聴きながら対応を心がけている。その時にどうして過ごしたいか、余暇活動や、食事、おやつに関して何を食べたいか等要望を聴くようにしている。また、家族には、目安箱を設置し忌憚ない意見をお願いしている。また、面会や電話連絡の際に意見要望等を聴くよう心がけている。	意思疎通が難しく希望・要望が的確に表すことが出来ない利用者には、いくつかの物を提示し選択してもらうよう工夫をしている。また、平素から表情・行動・しぐさから察知できるよう努力している。家族からの要望についても、来訪時や電話連絡の折に、聴くようにしている。家族の要望には日常の様子を正確に知らないためかと、うかがえる物もある。	事業所からの「おたより」は、つい特別な行事だけであったり、特別な事柄のみになってしまう。毎日の買い物や散歩、地域の人との立ち話など、利用者のなんでもない一日の様子を家族に伝えることが出来る工夫を期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日、昼礼を開催。また、月に1回職員会議を開催し、職員の意見や、提案を吸い上げるようにしている。		毎日の昼礼、月1回の職員会議で、担当の職員が提案し、その内容を職員間で検討して業務改善につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	職員の希望休を聴きながら、過密なスケジュールにならないよう調整している。また委員会活動など、職員の得意分野についてもらい自主性を持った活動できるよう勤めている。また、入居者と完全に離れて過ごす休憩時間を設けリフレッシュできるようにしている。	職員の希望休を聴きながら、過密なスケジュールにならないよう調整している。また委員会活動など、職員の得意分野についてもらい自主性を持った活動できるよう勤めている。また、入居者と完全に離れて過ごす休憩時間を設けリフレッシュできるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修に参加、勤務で参加出来なかった職員に関しては内容をビデオに撮影し、ビデオ研修を行っている。また、外部の研修にも参加している。職員教育には、管理者がケア内容、関わり方等を観ながらOJTを行っている。	法人内の研修に参加、勤務で参加出来なかった職員に関しては内容をビデオに撮影し、ビデオ研修を行っている。また、外部の研修にも参加している。職員教育には、管理者がケア内容、関わり方等を観ながらOJTを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	開設前には見学させていただいたが、施設間交流はまだできていない	開設前には見学させていただいたが、施設間交流はまだできていない		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居当初は本人の状況を見ながら、ゆったりと関わったり寄り添いの時間を作り、本人のバックグラウンドから本人が感情や、自分の思いを表出できるような環境作りを行い関係性を築いている。	入居当初は本人の状況を見ながら、ゆったりと関わったり寄り添いの時間を作り、本人のバックグラウンドから本人が感情や、自分の思いを表出できるような環境作りを行い関係性を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前に、2日間の面接日を設けて、家族の話を伺い信頼関係を築くようにしている。また、入居当初の環境に慣れない時期にあっては、心身の状況に変化があった場合は家族に連絡している	契約前に、2日間の面接日を設けて、家族の話を伺い信頼関係を築くようにしている。また、入居当初の環境に慣れない時期にあっては、心身の状況に変化があった場合は家族に連絡している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人家族はもとより、入居前に受けていたサービス関係者より情報提供を依頼し、ニーズを検討し暫定的なケアプランを作成している。	本人家族はもとより、入居前に受けていたサービス関係者より情報提供を依頼し、ニーズを検討し暫定的なケアプランを作成している。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(つくし)	ユニット名(たんぽぽ)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	様々な活動時、その方にできることを役割とし一緒に行うことで協力し合う関係を築き、作業が大きな役割を担っていることと感謝の気持ちを伝えるよう指導している。ありがとうと言われるより、職員からありがとうの言葉を伝えられる機会を多く作るよう指導している。	様々な活動時、その方にできることを役割とし一緒に行うことで協力し合う関係を築き、作業が大きな役割を担っていることと感謝の気持ちを伝えるよう指導している。ありがとうと言われるより、職員からありがとうの言葉を伝えられる機会を多く作るよう指導している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居時、家族が本人にしてあげたいことを伺い、ケアプランに反映させている。また、入居時、居室の準備に関しては本人とご家族で環境設定していただいている。	入居時、家族が本人にしてあげたいことを伺い、ケアプランに反映させている。また、入居時、居室の準備に関しては本人とご家族で環境設定していただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が通っていた商店での買い物や、かかりつけの美容院や病院に出かけ交流している。催し物のお知らせを行い施設へ来ていただいている。	かかりつけの病院を受診し、そこで近所の方と交流したり、いつも通っていた商店へ行って買い物などを行っている。	馴染みの商店での買い物や、地域のお祭り、運動会などに参加したり、友人の来訪もある。美容院・盆の墓参りなど家族の協力も得ている。ホーム全体の外出の際に、利用者の突然の希望を受け入れて、自宅訪問するなど柔軟な対応がなされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人の性格や相性・行動のパターンを考慮しながら、意図的に席を案内したり、さまざまな作業を協力し合って行うことで、お互いの存在を認め合える環境を作っている。また、作業終了時に集団で行うことの大切さ等を感じることができるよう話をしている。	個人の性格や相性・行動のパターンを考慮しながら、意図的に席を案内したり、さまざまな作業を協力し合って行うことで、お互いの存在を認め合える環境を作っている。また、作業終了時に集団で行うことの大切さ等を感じることができるよう話をしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	開設したばかりで退去者がいないが、そのような状況になった際には相談、支援していきたいと考える。	開設したばかりで退去者がいないが、そのような状況になった際には相談、支援していきたいと考える。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	要望をそのまま伝えられる方に対しては個人の思いを聴いたり、漠然として意思を伝えられない方に対しては、本人のバックグラウンドをもとにいくつかの選択肢を上げ、閉じた質問を行い、その返答や表情を見ながら把握に努めている。	要望をそのまま伝えられる方に対しては個人の思いを聴いたり、漠然として意思を伝えられない方に対しては、本人のバックグラウンドをもとにいくつかの選択肢を上げ、閉じた質問を行い、その返答や表情を見ながら把握に努めている。	利用者ひとり一人の生活歴、ライフスタイル、価値観などの把握に努めている。意思疎通が困難な利用者に対しては、方法を工夫している。日々の介護の現場からも職員は、表情や態度から察知したり、何気ない会話から希望、意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の事前面接を2回行い、そのうち1回は家族の了解があれば自宅訪問させてもらい、これまでの生活環境を見せていただいたり、生育歴、生活歴、趣味、趣向等情報を得ている。	入居前の事前面接を2回行い、そのうち1回は家族の了解があれば自宅訪問させてもらい、これまでの生活環境を見せていただいたり、生育歴、生活歴、趣味、趣向等情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間の過ごし方をチェックし、様々な地劇や事柄による感情の変化を観察し、好みの過ごし方を検討している。また、できる、できない、支援によりできる、わかる、わからない、支援により出来ることをセンター方式のシートを使い検討している。	24時間の過ごし方をチェックし、様々な地劇や事柄による感情の変化を観察し、好みの過ごし方を検討している。また、できる、できない、支援によりできる、わかる、わからない、支援により出来ることをセンター方式のシートを使い検討している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成時には本人家族から、要望、意見を求めそれに基づいてケアプラン作成している。概ね1か月半経過時にモニタリングを行い、実施の有無、できない理由を検討し再アセスメントを行い満足度を含めケア内容を見直している。	ケアプラン作成時には本人家族から、要望、意見を求めそれに基づいてケアプラン作成している。概ね1か月半経過時にモニタリングを行い、実施の有無、できない理由を検討し再アセスメントを行い満足度を含めケア内容を見直している。	ケアプランは3か月に1度作成、見直しが行われ、モニタリングを1.5か月ごとに行う。作成時に、本人、家族の意向、要望を聞くとともに、担当職員がアセスメント表を提出し、それぞれの意見を反映したケアプランを作成している。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(つくし)	ユニット名(たんぼぼ)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人のケース記録には日々の様子の記録はあるが、ケアプランに連動した記録というには不十分な内容である。	個人のケース記録には日々の様子の記録はあるが、ケアプランに連動した記録というには不十分な内容である。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サービスの多機能化には取組めていない。	サービスの多機能化には取組めていない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用はできていない	地域資源の活用はできていない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院受診は、本人家族が信頼している、入居前からのかかりつけの医師に診ていただいている。受診時は心身の状況を(こ一週間のバイタル、食事、水分摂取、また、排泄の状況及び精神面の変化等を伝えている。	病院受診は、本人家族が信頼している、入居前からのかかりつけの医師に診ていただいている。受診時は心身の状況を(こ一週間のバイタル、食事、水分摂取、また、排泄の状況及び精神面の変化等を伝えている。	利用者のほとんどが、入居前のかかりつけ医を受診している。3名が入居時に転院しているが、遠距離のため本人、家族の希望である。基本は家族対応ながら、事業所対応も柔軟に対応しており、受診後の情報も相互に伝え合っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職は配置されていない。	看護職は配置されていない。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合、毎日、病院へ面会に行き、入居者および家族の精神面へのケアを行っている。また、その際に病院関係者との情報交換を行っている。	入院した場合、毎日、病院へ面会に行き、入居者および家族の精神面へのケアを行っている。また、その際に病院関係者との情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当施設は開設したばかりであり、家族も契約を済ませたばかりで様々な思いが去来している時期だと考えるため、家族の状況が落ち着いてから、時期を見ながら終末期のあり方について話し合っていきたいと考える。	当施設は開設したばかりであり、家族も契約を済ませたばかりで様々な思いが去来している時期だと考えるため、家族の状況が落ち着いてから、時期を見ながら終末期のあり方について話し合っていきたいと考える。	入居時に、看取りについても家族と話し合いをしている。家族は、重度化した場合や終末期のあり方などに考えが及んでいない。事業所としては、本人、家族と事業所が、どのように取り組んでいけるか、情報を共有して支援していくことが課題であると認識している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	開設前の事前研修では、緊急時の対応について研修を行ったが、定期的には行っていない。	開設前の事前研修では、緊急時の対応について研修を行ったが、定期的には行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中の震災を想定した避難訓練を実施したが、運営推進会議にて、耐震構造であり屋内に待機しているほうが安全、むしろ地域の避難場所にしたいとの意見があった。火災対策に関しては、施設的にはオール電化でありスプリンクラー完備しているが、職員全員が避難の方法を習得しているとは言えない。	日中の震災を想定した避難訓練を実施したが、運営推進会議にて、耐震構造であり屋内に待機しているほうが安全、むしろ地域の避難場所にしたいとの意見があった。火災対策に関しては、施設的にはオール電化でありスプリンクラー完備しているが、職員全員が避難の方法を習得しているとは言えない。	9月に、日中の地震を想定した訓練を行った。実際に、各ユニットごとに職員3人で利用者を避難誘導し、その際は非常持ち出し、ヘルメットを着用して玄関までの経路を確認した。夜間を想定した訓練はまだ行っていないが、すみやかに近隣、地域消防団の協力を得られるよう働きかける予定である。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(つくし)	ユニット名(たんぽぽ)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃から、職員にはに相手の立場に立った声掛け、支援をするように指導している。また、疑似体験の研修をととしてケア提供事の振り返りを行っている。	日頃から、職員にはに相手の立場に立った声掛け、支援をするように指導している。また、疑似体験の研修をととしてケア提供事の振り返りを行っている。	言葉掛け、特にスピーチロック、排泄時の声かけなど注意している。職員研修では、職員がハビリパンツを使用している疑似体験や、利用者役、職員役を決めてのロールプレイなどを通し、事業所全体で取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	おやつや夕食のメニュー、余暇活動参加等、選択肢をあげ入居者と一緒に考え決めている。大勢の前で意見や思いを言えない方に関しては、寄り添いながら聴いたり、表情を見ながらすすめている。	おやつや夕食のメニュー、余暇活動参加等、選択肢をあげ入居者と一緒に考え決めている。大勢の前で意見や思いを言えない方に関しては、寄り添いながら聴いたり、表情を見ながらすすめている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の生活歴、背景を理解し要望をできるだけ聴いて支援している。日課はなく余暇活動に関しても、その時々で話題に上がった事を個人及び集団の状況を見ながら進めている。集団で活動することが苦手な方に関しては、無理強いせず希望を伺いながら対応している。	個人の生活歴、背景を理解し要望をできるだけ聴いて支援している。日課はなく余暇活動に関しても、その時々で話題に上がった事を個人及び集団の状況を見ながら進めている。集団で活動することが苦手な方に関しては、無理強いせず希望を伺いながら対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居時、おしゃれについて(好みの色・デザイン・こだわり)などを伺い、意に沿うよう支援している。また、着替え時、入浴時などは本人に衣類を選んでいただいている	入居時、おしゃれについて(好みの色・デザイン・こだわり)などを伺い、意に沿うよう支援している。また、着替え時、入浴時などは本人に衣類を選んでいただいている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みの食材、よく作った料理・食べたい食事、おやつについて嗜好調査を行い、食事作りに反映させている。また、食事作りの工程において、野菜を洗う、皮をむく、切る、炒める、混ぜる、盛りつける等、その時々声掛けや、モデル行動をととして行ってもらっている。	好みの食材、よく作った料理・食べたい食事、おやつについて嗜好調査を行い、食事作りに反映させている。また、食事作りの工程において、野菜を洗う、皮をむく、切る、炒める、混ぜる、盛りつける等、その時々声掛けや、モデル行動をととして行ってもらっている。	食事ケア委員の職員が、嗜好調査結果を反映した献立を作成している。献立は利用者からの希望があると変更したり、嫌いな物は替わりの品を作るなど柔軟に対応している。食事作りは、利用者の力に合わせた作業を職員と共に楽しく行っている。一緒に食べる食卓には、急須が置かれ自由に飲めるよう、細かな配慮がされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取カロリーや、6大栄養素を視野に入れながら献立作りをしている。食事・水分量をチェックしながら、摂取量の少ない方に関しては、食事時間に限らず摂取していただいたり、栄養価の高いものを提供するように心がけている。	摂取カロリーや、6大栄養素を視野に入れながら献立作りをしている。食事・水分量をチェックしながら、摂取量の少ない方に関しては、食事時間に限らず摂取していただいたり、栄養価の高いものを提供するように心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの習慣がない方もおり、毎食後は全員の口腔清潔はできていないが、起床時、就寝時は口腔ケアできている。(毎食後行っている方1名)	毎食後行っている方1名。生活習慣の中に毎食後の口腔ケアをしていない方が多く、その他の方は起床時、就寝時を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者全員トイレ使用し、尿意、便意を言えない方に関しては、排泄パターンを把握しトイレ誘導しており、オムツ交換の方はいない。	入居者全員トイレ使用し、尿意、便意を言えない方に関しては、排泄パターンを把握しトイレ誘導しており、オムツ交換の方はいない。	排泄チェック表を作成し、排泄パターンを把握しトイレ誘導している。利用者の表情や行動からタイミングを見極めたり、便失禁する人には、さりげなく誘うようにしている。夜間のみパットを使用する人はいるが、オムツ使用者は少ない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	頑固な便秘で緩下剤を使用されている方もいるが、食物繊維の多い食材や、水分を多く取ってもらったり、牛乳、ヨーグルトなどを摂取してもらったり、体操や散歩などを行っている。また、トイレ内に同行できる方に関しては、腹圧がかけられるよう声掛けしたり、腹部のマッサージを行い自然排便を促している。	頑固な便秘で緩下剤を使用されている方もいるが、食物繊維の多い食材や、水分を多く取ってもらったり、牛乳、ヨーグルトなどを摂取してもらったり、体操や散歩などを行っている。また、トイレ内に同行できる方に関しては、腹圧がかけられるよう声掛けしたり、腹部のマッサージを行い自然排便を促している。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(つくし)	ユニット名(たんぽぽ)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望移に沿うように援助している。毎日入浴されている方もおり、概ね週に3~4回入浴されている。	本人の希望移に沿うように援助している。毎日入浴されている方もおり、概ね週に3~4回入浴されている。	10時半~6時の時間帯に、毎日入浴する人や1日おきに入浴する人など、ひとり一人の希望に沿った入浴支援がなされている。どうしても入浴を嫌う場合は、足浴、清拭、ドライシャンプーなど行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	24時間生活変化表から、活動を調整したり、その時の表情、心身の状況を見ながら適宜休息を進めている。	24時間生活変化表から、活動を調整したり、その時の表情、心身の状況を見ながら適宜休息を進めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬説明書をファイリングし、内容の理解を促している。また、薬剤の変更があった場合は、申し送りノートおよび受診記録に記入し周知徹底している。投与時は投薬チェック表に記録し確実に投与、副作用に関しては、観察ポイントを個人別に表し、確認チェックを行っている。	内服薬説明書をファイリングし、内容の理解を促している。また、薬剤の変更があった場合は、申し送りノートおよび受診記録に記入し周知徹底している。投与時は投薬チェック表に記録し確実に投与、副作用に関しては、観察ポイントを個人別に表し、確認チェックを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時、生活習慣や趣味、趣向、その他生活歴を聞きとり、それをもとに、余暇活動を支援したり、様々な作業について、できる、わかることをチェックし、本人が意欲的に取り掛かっている作業を進めている。	入居時、生活習慣や趣味、趣向、その他生活歴を聞きとり、それをもとに、余暇活動を支援したり、様々な作業について、できる、わかることをチェックし、本人が意欲的に取り掛かっている作業を進めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、買い物に関しては、希望者が出かけられるよう支援している。コンサートや運動会など行政や学校関係者の協力を得ながら出かけている。	散歩、買い物に関しては、希望者が出かけられるよう支援している。コンサートや運動会など行政や学校関係者の協力を得ながら出かけている。	散歩、買い物、ホーム建物の周りの掃除など、ほぼ毎日、戸外に出かけている。本人の希望で、以前に通っていた文房具店や、饅頭店に行ったり、コンビニに週刊誌・菓子類を買いに行くこともある。家族の協力で、ホームコンサートを鑑賞するなど特別な楽しみ事の機会も作っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理について、家族から依頼されているため施設で管理している。毎月、個人現金出納票と領収書を送付し確認していただいている。	お金を自己管理している方もおり、本人の希望により買い物に同行し、支払やお釣りの受け取り等を見守りをしている。そのほかの方は、家族から管理を依頼されており買い物をする際お金をわたし、支払いやお釣りの受け取り等、その方の金銭管理能力に応じて支援している。毎月個人現金出納票と領収書を送付し確認して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があった時には対応している。携帯電話を所持している方に対しては操作時の声掛けを行っている。家族から贈り物が届いた時などは電話をかける機会を作っている。	要望があった時には対応している。また、家族の誕生日などにはお祝いの電話を掛ける手伝いをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体的に広い空間となっているが、色はベージュ、茶色を基調とし、普通の家の内装に近づけている。音に関しては、テレビや、音楽は雑音とならないよう、観よう、聴こうとしている時につける。また職員の声掛けや、生活音もできるだけ、静かにするよう指導している。季節感の取入れは、季節にちなんだの行事や、季節の草花を飾ったりしている。	全体的に広い空間となっているが、色はベージュ、茶色を基調とし、普通の家の内装に近づけている。音に関しては、テレビや、音楽は雑音とならないよう、観よう、聴こうとしている時につける。また職員の声掛けや、生活音もできるだけ、静かにするよう指導している。季節感の取入れは、季節にちなんだの行事や、季節の草花を飾ったりしている。	落ち着いた中に「豪華な空間」と思わせる雰囲気がある。居室を出て居間・食堂に向かう動線に洗面台があり、利用者は身だしなみを整え共有部分に向かう姿も見られる。対面式のシステムキッチンも広く、利用者と職員が一緒に調理も充分できる。一角には仏間があり、朝は読経・和讃を唱えている。また、ここは利用者同士がひっそり会話を楽しむ場ともなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仏間前のソファは他の入居者から死角となり独りになれる空間、また、ベランダに自由に出ることができ、ベンチでくつろげる。	仏間前のソファは他の入居者から死角となり独りになれる空間、また、ベランダに自由に出ることができ、ベンチでくつろげる。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(つくし)	ユニット名(たんぼぼ)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前、自宅訪問し、本人の部屋を見せていただき、また、使い慣れたベット、家具を持ち込んでいただき、ご本人、家族とともになじみの環境を作っている。	入居前、自宅訪問し、本人の部屋を見せていただき、また、使い慣れたベット、家具を持ち込んでいただき、ご本人、家族とともになじみの環境を作っている。	居室にはサンデッキが付いており、利用者自身が布団・洗濯物など干すことが出来、自宅の延長と感ぜられる。大きな時計、写真、自作の手芸品と好みの物が置かれている。ベッドから廊下に出る際に、転倒の危険をさけるため、家具に掴まり移動できるよう配置を工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	水道の蛇口の操作、衣類ダンスの引き出しなどは、わかりやすいよう簡潔な言語で表示している	水道の蛇口の操作、衣類ダンスの引き出しなどは、わかりやすいよう簡潔な言語で表示している		